

平成29年度技能伝承に取り組む企業の好事例発表及び意見交換会について

1 日 時 平成30年2月14日(水) 13:30~15:45

2 会 場 青森市新町1丁目「アラスカ」2階 ガーネット

3 参加者

ア 座長(取りまとめ役)

青森県労政・能力開発課

総括主幹・職業能力開発グループマネージャー 工藤 雅弘 氏

イ 技能伝承好事例発表企業

株式会社みちのく庭園 取締役部長 橋本 忍 氏

ウ 意見交換参加企業及び団体

株式会社浅工務店 常務取締役 内藤 祐次 氏

株式会社神鉄筋工業 代表取締役 神 健一 氏

有限会社佐藤鉄筋興業 専務取締役 佐藤 幸治 氏

有限会社堀内造園 代表取締役 堀内 幸夫 氏

有限会社齋藤工業 代表取締役 齋藤 司 氏

小野春建築工務所 代表 小野 春雄 氏

高長根建築 代表 高長根 博樹 氏

有限会社織笠工務店 代表取締役 織笠 拓重 氏

万年青園株式会社 専務取締役 福士 和利 氏

NPO 法人青森県樹木医会 理事長 笠神 誠一 氏

協同組合八戸造園建設業協会 専務理事 程熊 義信 氏

青森県室内装飾事業協同組合 事務局長 村上 眞一 氏

職業訓練法人八戸職業能力開発協会 事務局長 吉田 勇一 氏

参加者 10社及び4団体 14名

4 技能伝承に取り組む企業の好事例発表

『我が社における技能伝承～技能競技大会等を通じた技能向上と社員の育成～』

株式会社みちのく庭園 取締役部長 橋本 忍 氏

(1) 会社概要の説明

[設立] 昭和39年2月

[所在地] 八戸市河原木

[営業品目] 個人庭園、公共造園、工場緑化工事、エクステリア外柵工事、生花、慶弔花、園芸資材、造園資材

[社員数] 33名

[技能五輪全国大会出場歴及び入賞歴]

第53回大会(東京)に1名初出場：敢闘賞を受賞

第54回大会(山形)に2名1チームで出場：敢闘賞を受賞

第55回大会(栃木)に1名出場：3年連続で敢闘賞を受賞

(2) 技能五輪全国大会に参加したきっかけ

2007年11月に静岡県で技能五輪国際大会が開催されました。これに合わせて、日本造園組合連合会では、技能向上講習の一環で、世界の選手及び関係者に対する歓迎の意を込めた日本庭園を造ることになり、同組合に所属していた私は勉強のために参加しました。

その際、技能五輪国際大会の造園競技を見て、若者の技能レベルの高さと、作品の素晴らしさに驚かされました。

その技能五輪国際大会の造園職種では、日本代表選手が金賞を受賞しました。受賞選手は、東京都世田谷区の小杉造園株式会社に所属していた社員でした。当時、小杉社長から「チャンスがあったら、技能五輪全国大会に若手社員を積極的に参加させたら良い」との助言を受けて、いつか自社社員を参加させたいと思ったことがきっかけです。

当時は、公共工事の減少等で、会社は厳しい経営が続いていました。父である社長とは「これからはしっかりと職人を育て、お客様からその技能・技術で信用と信頼をもらい、着実に仕事ができるよう、人材育成に力を入れていかないといけない」と話をしたことがあります。

技能五輪全国大会参加に限らず、各種コンテストや研修などの参加を通じて、若手社員の育成と技能向上、人間性の向上を図っていきたいと思いました。



(3) 3年前に技能五輪全国大会に初出場してから、3年連続で敢闘賞を受賞

入社3年は下積みで掃除ばかりでつまらないと辞めていく者もいました。そこで、早くから造園の仕事の魅力、やりがいを感じられるよう、積極的に若手に石積みなどいろいろな造園作業に従事させました。

その経験を積ませた上で、技能五輪全国大会に初出場したのが3年前でした。

会社の敷地内に屋根付きの練習場所を作りし、先輩社員の技術サポートも受けながら、社員が大会に臨みました。結果、敢闘賞を受賞しました。2年目は、2名1チームでの競技で、2人とも夜遅くまで練習に励み、結果、2年連続で敢闘賞を受賞しました。そして、3年目も敢闘賞を受賞することができました。

(4) 今後

技能五輪全国大会で3年連続敢闘賞を受賞した社員は、すでに、一つの現場を任せられることができるまで成長しました。若手の手本となり、ベテラン職人をも引っ張りながら、色々な仕事をこなしています。技能五輪全国大会出場の経験は大きいと感じています。

今年の技能五輪全国大会沖縄大会には、2名の選手を参加させる予定です。

今後も、人を育て、若手を育てていくために、社員には多くのチャンスを与えることができる、そしてサポートできる会社でありたいと思っています。

技術力をつけなければ、お客様から信頼も信用も生まれてこない。とにかく自分の技術力を上げて、会社に利益が出たら、社員に還元する。技術力が向上したり、人間性が向上したと認めた場合は、給料を少しでも上げていきたい。

会社から言われる前に、自分で考えて行動を起こす人になってもらいたい。そのためにも技能五輪全国大会参加は奨励していきたい。

また、先ごろ、私、厚生労働省ものづくりマイスターの認定を受けたので、県内の農業高校等に出向いて、造園業の魅力発信活動にも力を入れていきたいと思っています。

5 意見交換の内容

◇ 若い社員には、早くから造園の仕事に興味や楽しさを感じてもらおうよう、下積みではなく、様々な造園工事に積極的に携わらせていると聞きました。私は、現場掃除などの下積みが人間性を磨くものと思っていますが、若手育成のためには、いろいろな手法を考えていくことも大切と感じました。

◇ 大会やコンテストに参加し入賞することにより、マスコミに取り上げられ、優秀な職人がいる会社と世間一般に評価が高まり、仕事も舞い込むという話を聞いて羨ましい限りです。会社に体力がないと出来ないことであるが、今後、参考としたい。

◇ 技能五輪全国大会に出場した場合、給料面、練習材料等、どのくらい費用がかかるものですか？

(回答) 1年目は、1ヶ月、仕事から外して練習させて、約50万円。2年目は、2名で、2ヶ月、仕事から外して練習させて、約130万円、3年目は約150万円かかりました。

投資はしたが、競技参加を通じて本当に成長し、既にそのかかった経費の3倍分は会社に貢献しています。お金はかかったが、参加させて良かったと感じて

います。

- ◇ 当社では、若手とベテラン職人の間の年齢差が大きく、技能伝承が円滑に行えていない。その辺は、どのような工夫をされていますか？

(回答) ベテラン職人は仕事や要領を覚えているので、どんどん前へ進みがちです。私よりも年上のベテラン職人達には、自分が楽をしてもいいので、若い人達へ技術を伝えてほしいと常にお願ひしています。

- ◇ 今、建築現場では、女性も活躍しています。貴社での状況を聞きたい。

(回答) 今、3名女性職人として活躍中です。そのうちの1名が、今年の技能五輪全国大会に参加予定です。職人になりたい、技能五輪全国大会に出場したいと入社してくる女性もいます。

- ◇ 造園職種組合スタッフの立場から、これまでいかに団体を、そして業界を発展させていくかを考えてきた。その中で、行政に対して、陳情や要望を行うことを繰り返してきた。

しかしながら、今、橋本氏の事例発表を聞いて、自分たちの持っている特別な技能、技術をもっと強くアピールしていく方がより効果的ではないかと感じた。

個々の企業が技術力を高めることにより、企業の利益につながり、組合及び業界の発展につながるようにしていかななくてはいけない。

6 全体総括（座長まとめ等）

株式会社みちのく庭園様の取り組みに深く敬意を表します。

昨年11月に栃木県で開催された第55回技能五輪全国大会には、全国から過去最高の1,337名の選手が参加されましたが、本県からは、電工、建築大工、造園、日本料理の4職種に6名に参加にとどまっています。

参加にあたっては、会社の大きな負担になりますが、大会参加を通じて、若手職人が技術面、精神面において成長し、会社に利益をもたらしている株式会社みちのく庭園様の好事例もあります。

是非、今後、各社、各業界でご検討なさってはいかがでしょうか。

他にも、技能五輪全国大会は年齢制限があって出られないという場合は、1級技能士等を対象とした全国技能競技大会である技能グランプリもあります。

いずれも、参加手続き窓口は青森県職業能力開発協会ですので、詳細についてお尋ねいただきたいと思います。

平成29年度ITを活用して業務改善に取り組む企業の好事例発表及び意見交換について

1 日時 平成30年2月15日(木) 13:30~15:45

2 会場 青森市「アラスカ」2階 ガーネット

3 参加者

ア 座長(取りまとめ役)

青森県技能振興コーナー コーナー長 成田 英樹

イ IT活用業務改善好事例発表企業

沼畑総合ファーム 代表 沼畑 俊吉 氏

(発表補佐: システム内容の説明)

株式会社アイティコワーク取締役 及び ITマスター 岡本 信也 氏

ウ 意見交換参加団体

浪岡アップル友の会 会長 藤本 誠司 氏

プロジェクトおおわに事業協同組合 業務兼経理課長 米倉 誠子 氏

プロジェクトおおわに事業協同組合 産直・催事主任 山田 美智代 氏

職業訓練法人八戸職業能力開発協会 事務局長 吉田 勇一 氏

職業訓練法人八戸職業能力開発協会 八戸地域職業訓練センター業務係長 米田 邦子 氏

参加者 2社・3団体 6名

4 ITを活用して業務改善に取り組む企業の好事例発表

『三八ものづくり技術大賞 優秀賞受賞製品

産直専用ポスレジ“アグリレジ”を導入して~その効果と利便性~』

沼畑総合ファーム 代表 沼畑 俊吉 氏

(1) 自己紹介

現在44歳。

28歳の時、帰郷し、就農。

果樹、野菜、畜産を担当。

NPO法人青森なんぶの達人村 代表理事を務め、地域振興に力を注ぐ。



(2) なぜ、アグリレジを導入したか

- ・産地直売所（以下、産直）における三者のがっかり（農家、事務会計、お客様）を解消したい！
- ・次なる直売インフラの形づくりへのチャレンジ！
- ・顧客の要望に細かく対応できるような体制を組みたい！



(3) 三者のがっかりとは

ア 農家のがっかり

- ・その日の売り上げが、その日に見えない。
- ・売れ行きに合わせた的確な補充ができない。
- ・感覚的な売れ筋の把握に頼ってしまい、PDCA が正確に回せない。
- ・産直出品へのモチベーションが上がらない。
- ・産直でしかラベル発行ができない。

イ 事務会計のがっかり

- ・販売データを会計データに変換するのに多大な労力、販売集計表作成に手間がかかる。
- ・販売員が売れ行きを農家へ電話で伝える限界。
- ・商品の新ラベル作成が業者にしかできない。
- ・会計業務に追われ、顧客対応に力を注げない。

ウ お客様のがっかり

- ・補充が充実しないため、午後には無い商品が続出。
- ・棚が空き、店舗の魅力に欠ける。
- ・なかなか欲しい物がない。
- ・去年あったのに、今年は無い商品がある。



これらの問題を解消するため、地元企業が開発し、
三八ものづくり技術大賞優秀賞を受賞した産直専用ポスレジ
「アグリレジ」を導入した。

(4) アグリレジとは

産直で使用する「ポスレジ」と「ラベルプリンター」のレジシステムです。
ラベルの印刷から売り上げの管理まで産直で必要な業務を全て行えます。
売り上げデータは、ネットワークを通じて一元管理され、生産者へのメール自動配信、
精算業務も簡単に行えるシステムとなっています。

(5) 導入の効果

- ・商品ラベル印刷から売り上げの管理まで産直で必要な業務を全て担っている。
- ・瞬時に商品の売り上げが分かり補充ができるので、売上のアップにつながっている。
- ・1日3回、生産者に対してメールで売り上げ状況の自動配信がなされ、商品の補充や在庫管理が容易となった。
- ・商品別の売り上げの把握も容易。
- ・自宅で商品ラベルが発行できる。
- ・売り上げデータは管理サイト上でリアルタイムに見ることが出来る。
- ・精算書などの各種帳票も印刷ができ、定期的な精算業務の負担を軽減している。
- ・レジ運用コストが下がった。

(6) 今後

- ・売り上げ分析がより簡単なシステム化を目指したい。
- ・お客様とSNSを通じてより緊密化を目指したい。
- ・外国人のお客様も多くなってきたので、キャッシュレス対応（電子マネー）も図りたい。
- ・アプリ化することにより、生産者がより使いやすいシステムにしたい。

5 意見交換内容

◇アグリレジ導入にかかる費用はいくらですか？今後、導入を検討したい。

(回答) 商品ラベルプリンターとタブレットが必要で12万円程度です。

一括で払えない生産者については、産直施設で立て替えてローン返済してもらっています。

◇生産者の方に、売り上げ状況等を知らせるメール配信を行うシステムがあると聞いたが、自宅にパソコンが無い方でも、スマートフォンとかでインターネットが出来る環境であれば、問題はありますか？

(回答) 問題はありません。導入の際、IDやパスワード、メールアドレス等の個人情報登録してもらい、運用しています。

◇商品ラベルプリンターについて、生産者がプリントアウトを行う場合、品数や枚数にもよると思うが、所要時間は？

(回答) 1回でプリントアウトできるは99枚で、そんなに遅くはないです。

◇当方、1ヶ月に1回、売り上げをパソコンに打ち込んで、産直施設が売り上げの何パーセントかの手数料をいただいている。このアグリレジでは、その手数料を自動計算

して、生産者に発信してくれるのですか？

(回答) 売り上げ、また商品ごとにも自動計算し、生産者に発信しています。

6 全体総括

アグリレジは、産直で使用する業務に特化して開発されたレジで、生産者が、自分の農作物の売り上げを迅速に把握することで、生産と販売へのモチベーションアップにつながると思います。また、精算業務においても負担が大幅に軽減されています。

アグリレジというITシステムを活用して業務改善に取り組んできた成果について、沼畑様に発表をいただきましたが、今日を機会に、システム導入を検討してみたいかでしょうか。

(その他)

ものづくりマイスターがITを活用して生産性向上等に資する実技指導を行った事例
→ITを活用しての指導依頼はありませんでした。